

宮古市市民交流センター（仮称） 防災展示学習ゾーン検討資料

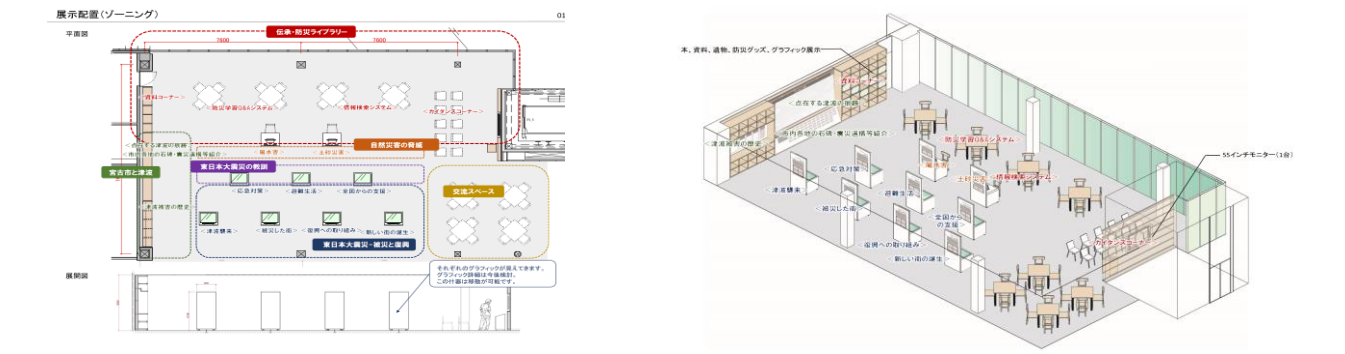
目次

前回の確認…01
ご意見に対する検討状況…02
宮古市と津波 地図方向について…03
デジタルサイネージを活用した展示について…04～06

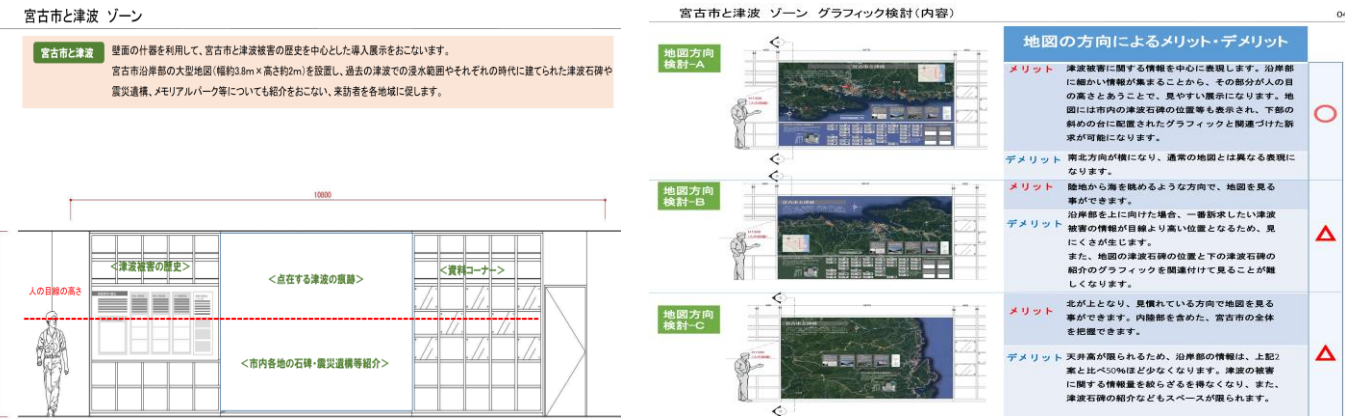
平成29年7月21日

前回開催の市民検討委員会（6/6開催）では、以下の内容について説明を行い、ご意見をいただきました。

①防災展示学習ゾーンの見学配置およびイメージ



②宮古市と津波ゾーン（壁面を使った展示のイメージ）

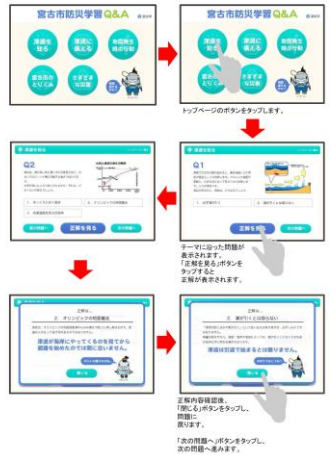
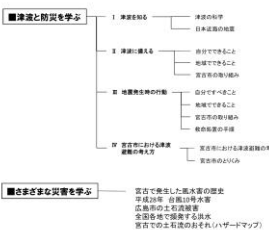


③防災展示学習Q & Aシステム
情報検索システム



防災学習Q&Aシステム

地震・津波災害への日頃の備えを知り、発生時の的確な行動力を身につけるため、市が作成した「津波防災学習教材」をベースとしながら、タッチパネルモニターを使ったQ&Aシステムを制作します。津波だけでなく風水害や土砂災害などについても、Q&Aに組み込みます。

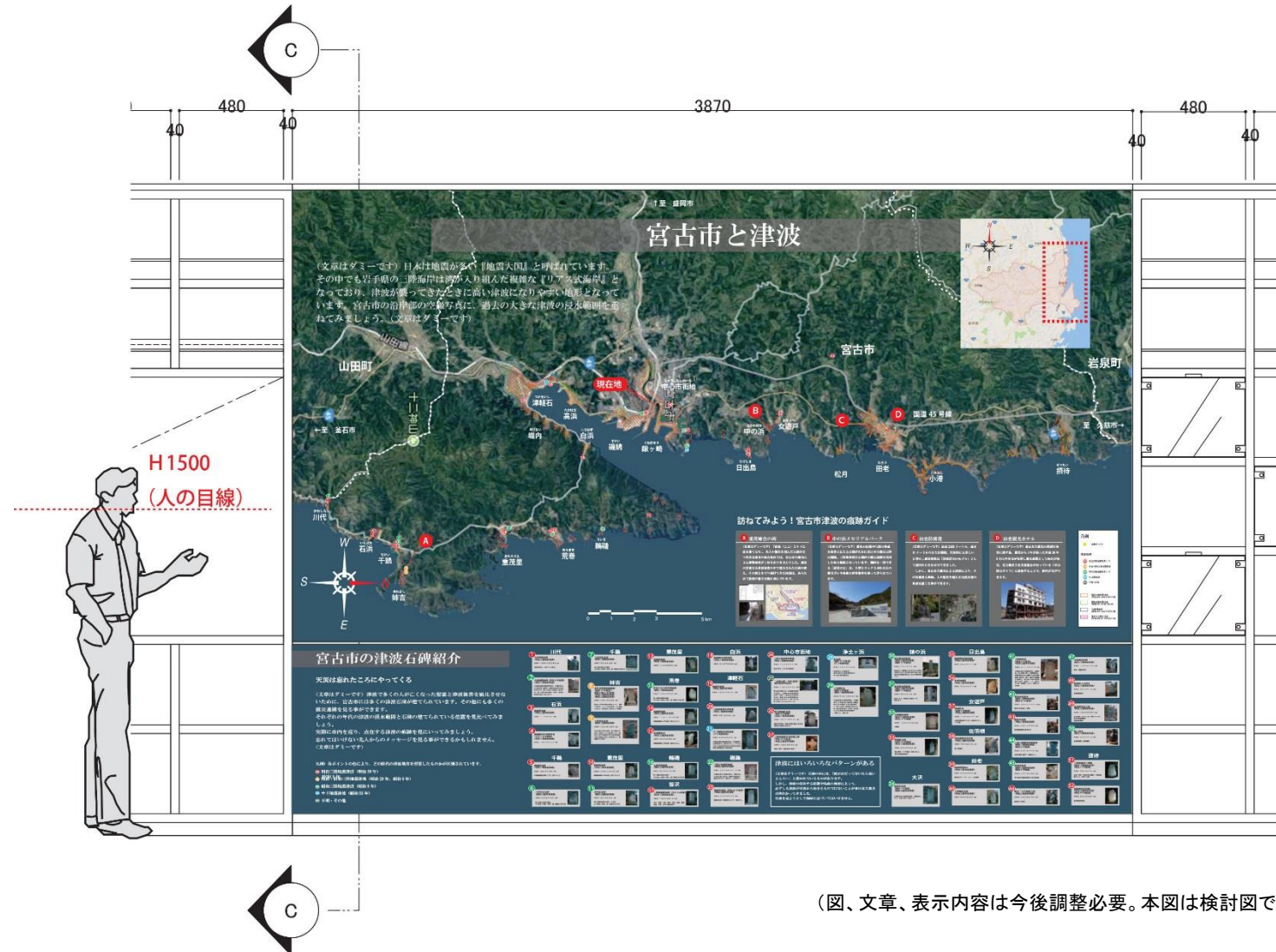


前回ご意見をいただいた内容については、以下のとおり検討を進めたいと考えております。

ご意見の内容	検討の方向性
バリアフリーに配慮した展示を検討してほしい	単独での見学が難しい方については、係員が付き添って展示を紹介するなど、人的運営によりサポートすることを検討します。 また、視覚や聴覚に障がいのある方への対応としては、情報検索システムに、『バリアフリーガイド※』の導入を検討します。 ※音声、映像を用いて防災展示学習ゾーン全体を紹介できるコンテンツ
Q&Aシステムと市ホームページの連動について	防災展示学習ゾーンに足を運んでいただき、ご覧いただくことが市民交流施設としての役割と考えます。多くの方に訪れていただけるよう、市ホームページにおいて、わかりやすく市民交流センター（仮称）の案内ができるように工夫してまいります。
陸と海の濃淡をわかりやすく表現してほしい	今後、航空写真のデータを関係機関から提供いただく予定です。それを基に展示物を作成することにより、より鮮明に濃淡を表現できるものと考えています。
写真撮影者を付記してはどうか	写真撮影者、提供機関などについて明らかなデータについては、付記するように検討します。
標高の表現を入れてはどうか 地図（方向）に対するご意見について	鮮明な航空写真を素材に使用することで、標高差（地形の起伏）を、認識いただける展示になるように検討します。 地図に関しては展示の目的と効果等を総合的に勘案し、次ページの地図を提案します。

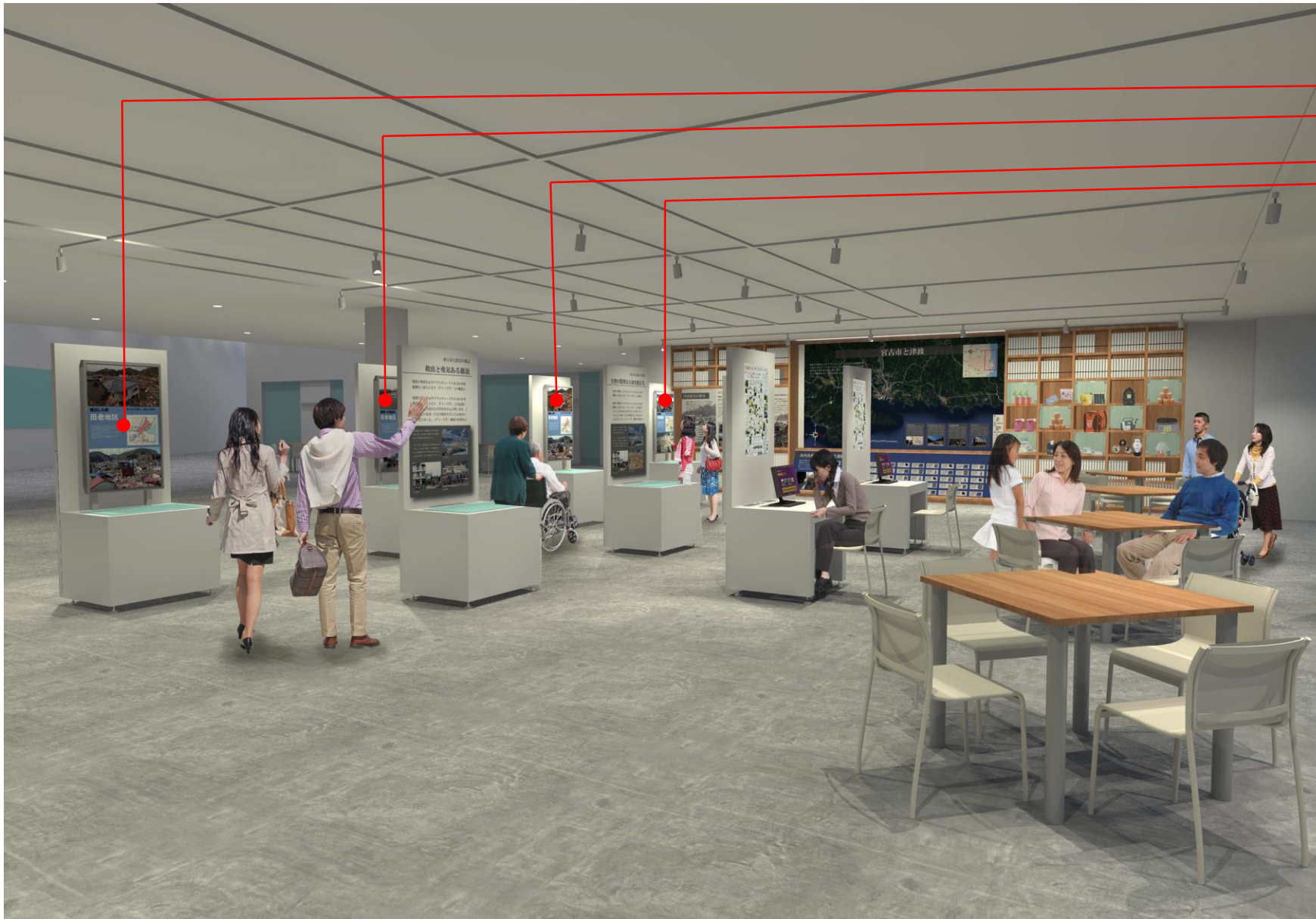
海方向を下に向けた案です。過去の津波の浸水範囲や津波石碑位置等、沿岸部に細かい情報が集中します。

人の目線の高さ近くに、できるだけ情報がくるよう配置を調整しました。



(図、文章、表示内容は今後調整必要。本図は検討図です。)

C 断面図



東日本大震災-被災と復興- デジタルサイネージ

東日本大震災で被災した各地区の被災直後の状況と復興の歩みを、より詳細に伝えます。固定のグラフィックだけでは紹介しきれない地区ごとの情報を、画面の変わるデジタルサイネージ(電子看板)により、見せていきます。
貴重な写真資料に解説文や図版等も加え紹介していきます。
情報の固定化を防ぐため、内容の更新が容易なシステムを選定しています。

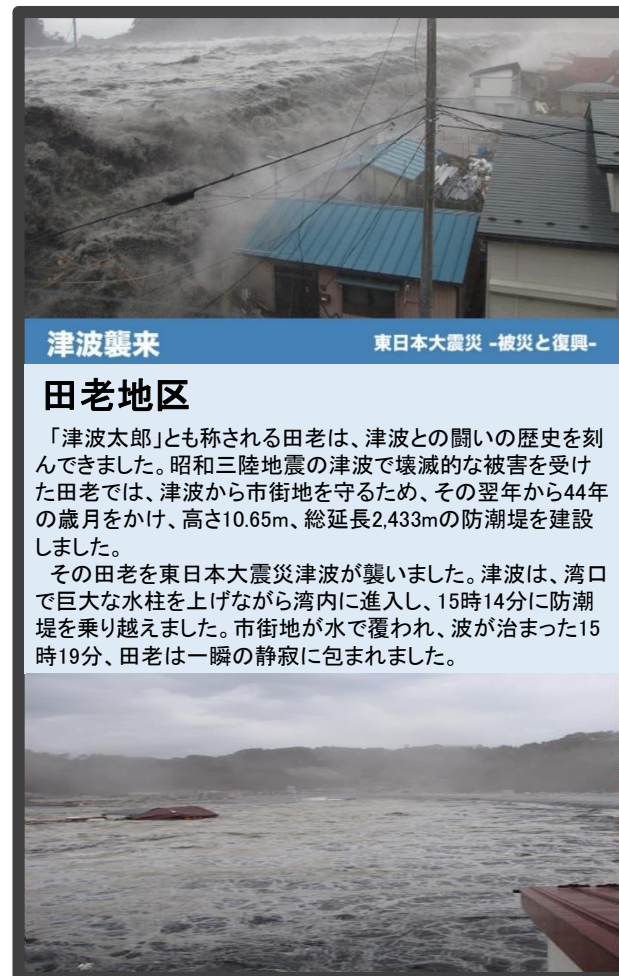


地区については、被害の大きかった沿岸部を中心に、地図上の位置関係により、以下の12地区を想定しています。

- ①田老 ②崎山 ③鍬ヶ崎・光岸地 ④愛宕・築地 ⑤宮古市街地
- ⑥藤原 ⑦磯鶏 ⑧藤の川・高浜 ⑨金浜 ⑩津軽石 ⑪赤前・白浜
- ⑫重茂

本日は、田老地区を例に構成の概要を紹介します。

デジタルサイネージ(サンプル画面)



■伝えたいこと

- ・地区ごとによって違う津波の襲来の様子
- ・地区ごとの被害状況 等



■伝えたいこと

- ・被災後の地区ごとの様子（損壊状況、被害）
- ・地区ごとの避難状況 等



■伝えたいこと

- ・地区ごとの復興への取り組み
- ・復興事業の様子 等



■伝えたいこと

- ・新しい街の紹介
- ・復興を象徴するトピック 等